

シンポジウム「医療における放射線防護の現状と課題ーCT 検査を中心にー」

主催 日本保健物理学会企画委員会

ランセット論文以降、医療被ばくへの国民の関心はますます高まっています。また、ICRP の放射線防護体系では、医療被ばくにおいて線量限度が適用されませんが、同じ目的、同じ放射線検査でありながら施設間で桁が異なるほど患者の被ばく線量に大きな差があり、さらなる線量の低減の可能性を示唆しています。現在、ドラフトが示され最終的な検討の段階に入っている新勧告案においても、第 6 章に「患者の医療被ばく」が取り上げられ、放射線防護全体における医療被ばくの重要度はますます高まっていると言えます。

わが国は同じ医療先進国である欧米と比べて医療被ばくが多く、その1つの要因として CT 装置の普及率の高さが指摘されています。そこで、今回のシンポジウムでは、まず、CT 検査を取り上げ、医療におけるその位置づけ、CT 検査(行為)の正当化、そして、患者の放射線防護のための取り組みなどを紹介しながら、医療における放射線防護の現状と課題について考えることにしました。当学会員だけでなく、放射線防護あるいは医療に関心のある方にお集まりいただき情報の共有をはかりたいと考えておりますので皆様是非ご参集ください。

日時:平成 18 年 10 月 28 日(土)13:30~17:00

場所:千代田テクノル本社 2 階会議室

(最寄り駅:JR/丸の内/千代田線・御茶ノ水駅)

〒113-8681 文京区湯島 1-7-12 千代田御茶ノ水ビル

参加費:2,000 円(学会員、非学会員共通)

1. 開会の挨拶 古田定昭 理事(企画委員会委員長)

2. プログラム

(1) CT 検査に伴う医療被ばくの国際比較

—Lancet 論文の問題点とリスク評価について—

大分看護大学 甲斐 倫明

(2) CT 検査における防護の最適化と医療被ばくガイドライン 2006

埼玉県立循環器・呼吸器病センター 諸澄 邦彦

(3) 医療現場における放射線防護の実践

—医療被ばく低減認定施設としての活動を中心に—

横浜労災病院 渡辺 浩

(4) CT 被ばくの社会的要因

藤田保健衛生大学 片田 和広

総合討論

座長 名古屋大学 太田 勝正

3. 閉会の挨拶

申込方法

※準備の都合上、参加される方は、10月23日(月)までにその旨下記連絡先まで電子メールかFAXにてお知らせください。1週間以内に返信いたします。

連絡先: 渡辺 浩 (日本保健物理学会企画委員会委員)

E-mail wata-hi@yokohamah.rofuku.go.jp

Tel. 045-474-8111 Fax. 045-474-8241

独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院 中央放射線部